

2-2 生活支援の展開

現 状・課 題

社会的背景

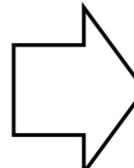
- 単身世帯や支援を必要とする軽度の高齢者の増加により、「介護・医療・予防」といった専門的サービスの前提として、「生活支援」の必要性が増している
- 高齢者の介護予防と同様に、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防に繋がる
- 生活支援体制整備事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、地域のつながりである「互助」をより強化するための事業。ここでは、高齢者・ボランティア・NPO・民間企業・地域団体等の多様な主体による重層的な提供体制の構築が求められる
- 自治体は、生活支援の担い手の養成・発掘、地域資源の開発やそのネットワーク化等を主導する地域支え合い推進員や協議体の運営を支援する

市の現状

- 調布市では、平成27年4月から生活支援体制整備事業を開始以降、体制の充実化を推進
  - 平成29年4月 第1層（市全域）の地域支え合い推進員に市職員を配置
  - 第2層（福祉圏域）の地域支え合い推進員に社協職員（2名）を配置開始
  - 令和5年10月 第2層の全8圏域に地域支え合い推進員 配置完了予定
- 調布市での生活支援体制整備事業の3つの視点
  - ①多機関協働の支援体制の構築
  - ②地域での支え合い活動の創出
  - ③社会参加でハリのある生活
- 高齢者の社会参加による介護予防や住民主体の支援活動等の推進
  - 平成31年～ 「セカンドライフ応援キャンペーン（以降、セカキャン）」の開始  
高齢者が元気で生きがいを持って自立した生活が送れるよう、地域団体・民間企業等の多様な主体が実施している取組を集約・見える化
  - 令和3年～ 「常設通いの場スタートアップ補助金」の開始
  - 令和3年～5年 「つながり創出による高齢者の健康増進事業～CDC（調布・デジタル・長寿運動）（電気通信大学・アフラック・調布市による実証実験）  
アクティブシニアを中心に「場所」・「人」・「コンテンツ」の「つながり」を促進することで『健康寿命の延伸』と『主観的幸福度の向上』を目標とする
- ゆうあい福祉公社で住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充
  - 有償在宅福祉サービス事業、生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」、相談事業
- 総合事業（サービスA）の実施

課題等

- 「支え合いの地域づくり」の目的・意義、事業内容について、高齢者を含む市民や地域団体・企業等に対して、認知度を高める必要がある。また、地域のキーマンや潜在的担い手層（現役世代を中心に、地域活動に興味はあるが活動していない層）への情報提供を強化する必要がある  
【地域支え合い推進員認知度7.3%（引用元：令和3年度調布市民意識調査）】
- 通いの場の拡大・高齢化、多様性・多世代確保【常設通いの場：4か所、ひだまりサロン：92か所】
- 新たに配置される地域支え合い推進員や第1層・第2層間の連携強化を図りながら、地域支え合い推進員を中心とした地域活動の活性化、生活支援・介護サービスのニーズ把握や資源開発、ネットワークの構築など、支え合いの地域づくりを推進していく必要がある
- 総合事業（サービスB・C）やボランティアポイント等の検討



第9期計画での取組検討（案）

① 地域支え合い推進員

- 第1層（市全域）・第2層（福祉圏域）ともに、既存活動や新たな住民主体の活動設立を伴走支援するとともに、地域福祉コーディネーター（CSW）や地域包括支援センター、地域企業・団体との連携を強化し、支え合いの地域づくりを推進する。また、周知・情報提供の仕方を検討・改善する  
【KPI：地域支え合い推進員認知度 15%（第9期計画期間中）】
- 高齢者がふらっと入れる居場所の創出を目指すため、市・包括のサポート、住民・企業・団体との相互協力の下、担い手の発掘・育成に努める  
【KPI：常設通いの場 5か所（第9期計画期間中）】

② 協議体

- ネットワークづくりに加え、定期的な情報共有・連携、地域課題の把握・解決の場としていく  
【KPI：第2層開催回数 300回（第9期計画期間中）】

③ 高齢者の社会参加による介護予防や住民主体の支援活動等の推進

- 社会参加が少ない方へのアプローチの一環として、世帯状況調査（令和4年度新規調査：2,286人）を活用し、未回答者が調査票でのSOSを発信できない可能性を踏まえ、民生委員・児童委員や広報協力員等と連携して、適切な支援へと繋ぐ体制づくりを検討する  
【KPI：就労を含む社会参加をしている高齢者の割合 70%（第9期計画期間中）】
- 引き続き、セカキャンを活用して、地域団体・企業との連携・協議を深め、支え合いの地域づくりの推進や多様な活動を確保していく  
【KPI：セカキャン協賛企業・団体 115（第9期計画期間中）】
- 高齢者の活躍・生きがいの場の一つとして、就労的側面にも注視し、関係団体との連携促進する

④ 総合事業

- 既存・新規事業とともに、団体（住民）の意向を十分に汲み取ったうえで、団体活動への支援として、補助金だけでなく、新たな活動の枠組みとなる総合事業のサービスB・Cの可能性や有効性等も含め、今後の方向性について協議・検討を進める。また、サービスBが活用できるようにするためのケアマネジメントについても検討する  
【KPI：調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修受講者 120人（第9期計画期間中）】  
【KPI：調布市高齢者家事援助ヘルパー登録者 80人（第9期計画期間中）】

※サービスBとは

介護保険法の改正に伴い、介護予防訪問介護・介護予防通所介護が介護予防生活支援サービスとして、地域支援事業へ移行したことで、新たに設けられた枠組み。既存の介護事業所によるサービスではなく、多様な担い手による多様なサービスを「サービスB」として、フォーマルサービス化できる

